

1 はじめに

本校は、南陽市南部の平野部に位置し、創立120周年を迎える伝統のある学校である。

「よく考える子ども、やさしい子ども、たくましい子ども、ねばり強い子ども」を教育目標に掲げ、「明るいあいさつ、きれいな歌声、やさしい言葉、夢いっぱい」のスローガンのもと、「意欲的・主体的に学び、たくましく生き抜く子どもの育成」を目指している。児童数は、413名、18学級である。(平成27年10月1日現在)

2 歯科保健活動の視点

○視点1：学校歯科医との連携と取組の継続

○視点2：行動変容を目指すための工夫

3 実践内容

(1) 視点1について

① 歯科健康診断の場からの改善

26年度は、一人一本の歯鏡を使ったが、一人一本だと歯鏡と反対側の口腔内に医師の指を入れて診ることになる。検診を受ける児童が替わる度に医師の指を洗えばいいのだが、大人数の検診の場では能率が悪くなってしまふ。そうすると医師の指を媒介として、ミュータンス菌を含む口内細菌が児童から児童へとうつることが考えられる。それを防ぐために、27年度からは、児童一人につき2本の歯鏡を使う検診へと変更した。

本校の学校歯科医は、一人につき2本の歯鏡を使うことを快く承諾してくれ、協力してくださっている。

② 歯科衛生士によるブラッシング指導

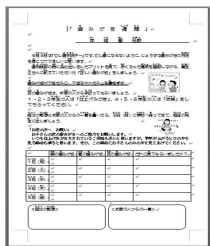
現在の学校歯科医が担当になってから20年近く、毎年、全校児童へのブラッシング指導を行っている。検診の後に染め出しをして、赤くなった部分を記録してから、5～6人のグループで衛生士からのブラッシング指導を受ける。染め出しをすることに抵抗を示す児童もいるが、自分のみがき残しを実際に目にすると、みな真剣に観察して記録し、真っ白くなるまでみがこうとする姿が見られる。鏡を見ながら一生懸命にみがき、衛生士から点検してもらって「合格」になるまでやり直している。何度か染め出しをしている高学年は、みがき方が上手になっていて、ほとんど赤くならない児童もあり、継続して指導したことの成果を感じている。衛生士は児童の扱いにも慣れていて、上手に意欲づけしながら教えてくださっている。

(2) 視点2について

① 「口の中 元気カード」

歯みがきの強化週間を6月と11月の年2回、実施している。特に夜の歯みがきを大切にもらうために保護者の方の協力を得て、低学年には仕上げみがきを、高学年には点検をお願いしている。日常的に仕上げみがきをしている家庭もあるが、この取組がきっかけとなる家庭もあり、保護者はとても協力的である。

11月はPTA保体部の事業として行い、期間中に1回、家庭での染め出しも行っている。親子で一緒に口の中を観察することで、仕上げみがきが必要な場所が確認でき、その後の家庭での歯みがきに活かされているようだ。



<保護者の感想より>

1年男児「仕上げみがきの大切さを、改めて実感しました。自分の歯を見て！と、これをきっかけに歯みがきが好きになるといいです。」

3年男児「染め出しで赤く染まった歯の周辺を、特に念入りにみがきました。みがき残しのないよう、しっかり毎日、仕上げみがきをしていきます。」

② 全国学童歯みがき大会への参加

この大会は日本国内だけでなく、アジアの地域からも5万人以上の小学生が参加し、歯と歯ぐきの大切さや上手な歯のみがき方などを学んでいる。毎年6月4日にインターネット配信で行われ、本校は学校歯科医からお勧めをいただき、26年度から4年生が参加している。大会内容は、児童が「歯と口の健康」を自分の生活と密着した問題として認識できるように工夫されており、観察するポイントを確認しながら自分の口の中を観察したり、自分の歯みがき習慣について考えさせる内容もある。教室にいる児童だけでなく国内・海外の沢山の小学生と一緒に学んでいるという意識ももてる。歯ブラシや歯みがき剤、フロスなどの教材は無料配布で、大会後も継続して使用できるのも良い。

(3) その他の取組

① 給食後の歯みがきの実施・・・クラス毎に歯みがき音楽を流しながら行っている。

② 発育測定時の保健指導・・・年に4回、クラス毎に行っている。内容は歯科に限らず、児童の実態から必要なことを指導している。

4 今後への展望

現在の取組に工夫を加えて継続しながら、さらに発展していくための方法を模索している。保護者への啓発を含め入学前から意識を高めるために、就学時健康診断の方法の改善やPTA行事での歯科講演会、給食後の歯みがきの際の重点の提示などを考えている。